

特集

わたしたちのwithコロナ



研究室訪問
学びのトビラ
クローズアップ別大生
卒業生インタビュー
こんにちは先輩!!
地域連携

編集／別府大学・別府大学短期大学部 広報室 発行日／令和2年9月30日 印刷／佐伯印刷株式会社
別府大学・別府大学短期大学部 〒874-8501 大分県別府市北石垣82 TEL.0977-66-6262(広報室)
禁無断転載



真理はわれらを自由にする



「母の電車と私の電車 -Dementia-」

〈あらすじ〉

電車の中で交わされる会話。同じことが繰り返される認知症の母と娘のやり取り。
娘は大切な母への想いを抱いて終りのない今を生きていく。

この作品は、アルツハイマー病(認知症)患者をとりあげたものである。
大叔父がこの病気で苦しんだ。この病気は症状がだんだんと重くなり快復することは難しい。
迷子になったり、親子関係さえ認識できなくなる。
大叔父が自分の娘のことも忘れてしまっても辛抱強く介護を続けていた叔母の忍耐、
病気になるにつつも大叔父のやさしさが、私に深い印象を残した。
この物語を通して、アルツハイマー病(認知症)を
多くの人に知ってもらいたいと思っています。
この作品を病気になっても優しい大叔父に捧げます。

程 文軒

(文学部 国際言語・文化学科 マンガ・アニメーションコース)

(2020年2月 アニメーション作品 2分47秒 / 制作指導：甲元隆則 准教授)

地域に開く「知」の扉

―全国ではじめての市民大学―

社会教育や生涯学習の推進のため、各大学では公開講座や市民向けのイベントなど、高等教育機関ならではのプログラムを地域社会に提供しています。別府大学は建学の精神に「真理はわれらに自由にする」を掲げ、教育・研究成果を社会に還元することを地元の大学の使命と考えてきました。

エデュケーションルーム」を立ち上げます。大学の精神を踏まえ、大学の知のソースの一端を公開し、大学の教育・研究の魅力を、楽しさを知っていただきたいと思えます。今後も、開かれたキャンパスを目指していきます。

別府大学アーカイブズ

その取り組みは、別府大学の前身である別府女子専門学校時代の始まり、昭和22年に全国ではじめて「市民大学」を開催しました（別府市と毎日新聞が後援）。女専の校長で、本学創設者の佐藤義詮は、戦争で荒廃した人々に学ぶ楽しさを味わってほしいという想いから、経済学、自然科学、文学、哲学、社会学など女専の教員を総動員した講座を行いました。高度な学問を公開しても、誰もこないだろうという予測に反し、受講者が教室から廊下にあふれるほどに大盛況でした。この「市民大学」は、学問を狭い学校の中に留めず、広く地域に根差すものとして、多方面から注目されました。



別府女専新聞第3号(昭和22年11月26日付)の「別府市民大学開講」の記事

特集 わたしたちの with コロナ

新型コロナウイルスは、わたしたちの生活様式を大きく変えようとしています。例年は新入生で賑わう春先のキャンパスも、緊急事態宣言の発令により自宅での待機を強いられました。「3密」「ソーシャルディスタンス」「オンライン授業」といった単語も使い慣れるまでになった今、学生たちはどう感じているのでしょうか。また、大学はどのような対策を講じたのか。特集記事で振り返ってみました。



外出自粛で自宅での学習や余暇を楽しむ学生たち。「巣ごもり消費」という言葉も生まれました

2020

別府大学での出来事

日付	出来事
12月	中国湖北省・武漢市で原因不明の肺炎患者確認
1月16日	日本国内で初めて感染確認
2月3日	乗客の感染が確認されたクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」が横浜港に入港
13日	国内で初めて感染者死亡
20日	中国に帰国し再入国する留学生への対応
26日	中国・韓国の4月入学生の受け入れの変更
27日	全国の小中高校に臨時休校要請
29日	学生への注意喚起・対応
29日	中国・韓国から戻った外国人留学生への注意喚起
3月3日	大分県内初の感染者確認
4日	卒業式の実施方法の変更を発表
16日	2020年度入学式の日程変更
21日	海外留学中の学生帰国
24日	2019年度卒業証書・学位記授与式を学内にて実施
27日	別府市で初の感染者確認
4月7日	7都府県に「緊急事態宣言」
13日	2020年度入学式実施
15日	授業開始
16日	「緊急事態宣言」全国に拡大
17日	休校（18日まで）
20日	学内立ち入り禁止。オンライン授業スタート
5月21日	大学独自の緊急学生支援を発表
25日	「緊急事態宣言」全国で解除
6月1日	対面授業の一部再開（マスク配布・テント設置）
3日	別府市による学生エールプロジェクト実施
19日	都道府県をまたぐ移動の自粛要請 全国で緩和
28日	世界の感染者1000万人を超える
29日	世界の死者50万人を超える
29日	対面授業再開第2段階・大分駅からバス運行

新型コロナウイルス感染症に関する主な動き

03	特集 わたしたちの With コロナ
10	学科からのトピックス
12	令和2年度就活最前線
13	海外へ飛び出し、世界を広げよう!! 海外留学制度
14	クローズアップ別大生 円城寺 健悠 (文学部 史学・文化財学科 2年) 波多野 歩美 (短期大学部 初等教育科 2年)
16	研究室訪問 学びのトピラ 文学部 人間関係学科 准教授 池田 真典
17	学生支援プロジェクト
18	卒業生インタビュー こんにちは先輩!! 白石 千恵さん (国際経営学部 国際経営学科 卒業) 緒方 温子さん (短期大学部 食物栄養科 卒業)
20	学園からのお知らせ
22	地域連携
23	インフォメーション

私たちはコロナと どう向き合ったのか

入学式延期、授業のオンライン化、先行きの見えない就活：など、新型コロナウイルスは、キャンパスライフにも大きな影響を及ぼしました。その時、学生たちはこの事態をどう受け止めたのか、それぞれの立場からお話を伺いました。

前代未聞の緊急事態を乗り越えるために

西村 新型コロナウイルスに関する報道がされた当初は、ここまで事態が深刻化することは誰も予想できなかったと思います。皆さんは刻々と進展していく様子を、どのように見ていましたか？

于 最初に感染が広がった武漢市は、出身地である山東省から遠い位置にあります。それでも子どもの頃に感染拡大したSARSを思い出し、家族のこ



国際経営学部 国際経営学科 4年
于 晓豪さん
(中国山東省海陽市出身)

上野 初めてコロナのことを耳にした時は、史学・文化財学科の研究発表会が終わったばかりで、「流行する前だよ良かったね」と感じた程度でした。でもクルーズ船 ダイアモンドプリンセス号での集団発生や、春節の影響が心配されるといったニュースが次々と報じられ始めると、不安が増してきました。

阿部 私は小学校の教育実習を終えた後に卒業式も見学させていただく予定だったので、臨時休校の要請が発せられたため、それができなかったのが残念でした。でも、対応に迫られる現場の先生たちの行動を間近に見て、ある意味、緊急時に対処する時の心構えなど、身をもって学ばせて

くれたため、それができなかったのが残念でした。でも、対応に迫られる現場の先生たちの行動を間近に見て、ある意味、緊急時に対処する時の心構えなど、身をもって学ばせて



文学部 史学・文化財学科 3年
上野 結佳子さん
(宮崎県北諸県郡三股町出身)

もらったようでした。

上野 今年高校へ入学した弟がいるのですが、中学の卒業式も高校の入学式も在校生、来賓が出席できないという異常事態に驚きました。一生に一度となる節目の行事がこんなことになるのは、悲しかったです。

西村 これまで私たちが遭遇したことのない事態が続く、「3密」「ソーシャルディスタンス」など感染拡大を予防する新しい生活様式が叫ばれるようになりました。その一方で「自粛警察」など過度な行動に出る人も現れ、皆さんにとっては、大人が大人らしくなく、見えたのではないのでしょうか。そのような状況で、いったん授業が開始された時、どう思いました？

于 正直なところ、最初の授業再開は「大丈夫なのか」と思いました。ところが、その直後



短期大学部 初等教育科 2年
阿部 恵夢さん
(大分県杵築市出身)

上野 教職を取っている友人は小テストがあったかと思えば、別のレポートが入ってきたり、授業の感想を送るのを忘れてと、次から次へと課題をこなすことが大変だったと言っていました。

阿部 課題が増えたというよりも、ネットに繋がった状態でレポートを書いていると、便利な面がある一方で困った面も出てきますね。たとえばいろいろな調べているうちに、所定の文字数より多くなったという声はよく聞きました。

西村 ネットを使うことで学びに広がりがあるのはいいのですが、ネット上の膨大な情報量を整理しきれなくなるという面はありますね。

于 私はネットのおかげで、就職活動がずいぶん助かりました。オンラインで面接が行われる

に緊急事態宣言が発令され、再び休校の知らせが届いた時は「大学側の対応も難しいんだろうな」と思うようになりました。

西村 実は緊急事態宣言の期間中の学内は大変だったんですよ(苦笑)。再開後はZoomや Moodle といったシステムを使ったオンライン授業を中心にせざるを得ないという結論に達したのですが、オンラインに慣れていない先生たちの意識をどう統一するか、オンラインでは無理な実習や演習はどう対処すべきか、学生が安心して学べる環境は整備されているか等、あらゆる角度で再開に向けての対策を図りました。最終的には飯沼学長と仲嶺短大学長がリーダーシップを発揮したことで、全員が同じ方向を向いたように感じます。

オンライン授業による新しい学び方とは

西村 急にオンライン授業に切り替えられたことで、とまどったことはありませんか。

上野 私自身はスムーズにオンライン授業に入っていました。

かしていききたいですね。

阿部 先ほど話に出てきた自粛警察の例にあるように、勝手な思い込みから相手に自分の考えを押し付けることが、いかに愚かなことが痛感しています。教師を目指す身として、多様な価値観を尊重していきたいです。

上野 私は、普段から当たり前に行っていることを、ちゃんとやっておくことの大切さを感じました。実家から離れて、ひとり暮らしをしている分、その思いが、より強いのもかもしれません。

西村 「with コロナの時代」とも言われていますが、未知の体験はまだまだ続くかもしれません。今回の体験で得た「知識」を、知恵に変えていき、次の世代へバトンタッチしていくことが、私たちに与えられた使命なのかもしれません。

西村 靖史
文学部長



大分県杵築市出身。小学校時代の担任に憧れ教職を目指すようになり、資格取得が可能な初等教育科へ進学。春休みは教員採用試験に向けて友人たちと受験勉強に励む予定だったが、コロナの関係で大学へ行くことができず自宅学習に集中する。「オンライン授業を通じて、ICT教育の重要さも痛感しました」とも。

PROFILE 3

短期大学部
初等教育科 2年
阿部 恵夢さん



宮崎県北諸県郡三股町出身。春休みは帰省せず別府に滞在。コロナの影響でアルバイトが減。日本の近現代史を学びたく、史学・文化財学科に入学。「城郭研究会」に所属しており、自粛期間中は次に訪ねるお城に想いを馳せたほか、ホットプレートでたこ焼きパーティーを楽しんだり、クロスバイクで出かけたりもしたという。

PROFILE 2

文学部
史学・文化財学科 3年
上野 結佳子さん



中国山東省海陽市出身。専門性の高いスキルを身に付けたいと留学を決意し、親戚の縁を通じて別府大学で会計学を学ぶ。日本での就職活動を経て、既に内定も獲得。別府市役所で別府市国際交流推進員としても活躍しており、別府市内の留学生と幅広いネットワークを持つ。コロナ騒動を市役所の窓口でも体験。

PROFILE 1

国際経営学部
国際経営学科 4年
于 晓豪さん



授業を止めるな!

奮闘記

日本中の教育界を混乱の渦に陥れた新型コロナウイルス。予期せぬ事態に緊急対策を講じる中、別府大学は教職員一丸となって授業の実施を検討しました。「学び」を継続させた大学の動きを、FD・SD委員長の安松みゆき教授とメディア教育・研究センター長の後藤善友教授と振り返ります。



飯沼 賢司
別府大学長

メディア教育・
研究センター長
後藤 善友
教授

別府大学
FD・SD委員長
安松 みゆき
教授

2 学長のリーダーシップで取り組み開始

対策会議の設置後、さっそくオンライン授業を開始すべく獅子奮迅の日々が始まります。この時にリーダーシップを発揮したのが、飯沼賢司大学学長と仲嶺まり子短大学長です。教務委員会、システムに詳しい教職員らと連携を取りながら、率先して他大学に先駆けた取り組みを開始しました。

1 コロナに屈せず「学び」を続ける

コロナ対策に先駆け、所轄官庁である文科省から届いたメッセージは、感染対策を講じながらも「授業を継続」すること。この時点で具体的な施策は提示されていませんでしたが、大学は機動力のある「新型コロナウイルス対策会議」を設置。大分県から出された指針を前提に対応策を組み立てていきました。

3 メディア教育・研究センターの存在

もともと別府大学のメディア教育・研究センターでは、e-learningシステム「Moodle(ムードル)」を早々に導入しており、若手教員による取り組みが既に始まっていたのです。オンライン授業の開始にあたり、情報教育に精通した教職員の存在が大きな力になったことは言うまでもありません。

4 どこよりも早くオンライン授業開始

コロナ対策を講じた入学式を終え、4月15日(水)から対面授業を開始します。この時、学生や保護者から多くの不安の声が届きましたが、実はこの期間をオンライン授業の説明期間に設定していたのです。ところが翌日に緊急事態宣言発令で休校へ。しかし翌週20日(月)には、県内大学の先陣をきってオンライン授業を開始しました。

5 教員、職員、学生が一丸となった取り組み

オンライン授業開始とはいえ、初めての取り組みであり、必ずしもスムーズなスタートとは言えませんでした。きめ細かな勉強会(FD研修会)が繰り返され、学生たちも順次対応していきました。おかげで最初はオンライン授業を拒否していた先生も始めるまでになり、連休明けの5月8日(金)には、全教科の91%がオンライン対応となりました。

6 学生たちにとって何が一番大切か

オンライン授業開始後も、大学への厳しい意見や不安・不満の声は止みませんでした。これに対し大学は「学生たちにとって何が一番大切か」を念頭に、ひとつひとつ真摯に対応していきました。受講方法がわからない学生への個別指導も徹底しました。その成果が実り、受講スケジュールは軌道に乗りました。

7 対面授業を再開し改善しながら前進

6月1日(月)には対面授業を一部再開。再開にあたり学生へのマスク配布、学食が「密」にならないよう中庭にテントを設置、飛沫防止シートの配備等が施され、6月29日(月)からは大分駅から直通バスも運行しました。今後は、授業の実施方法や学生生活の要望など随時改善に取り組みながら、教職員、学生が共に前向き「With コロナ」時代を進んでいきます。

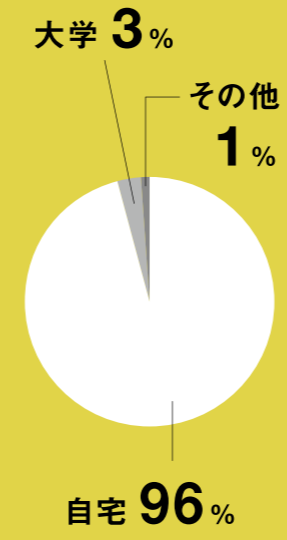
別大生が 答えてくれました。

アンケートに

コロナ禍で感じた感想を集約しました

※回答者数 887人 / 学生数 2,563人、回答率34.6% 実施期間 2020年7月15日~7月31日

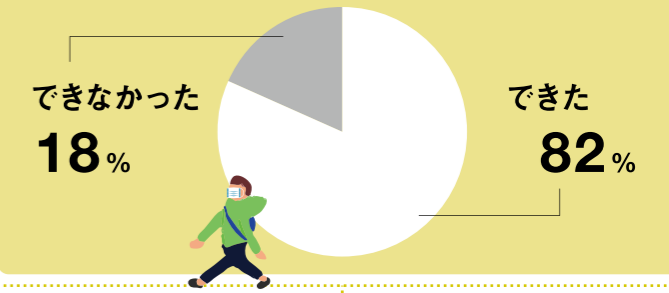
オンライン授業をどこで受けていますか?



どんなことで困りましたか?

- Moodleの課題提出の仕方がわかりにくい。
- Zoomの使い方が分らなかった。
- 自宅でWiFiが繋がらない。
- 出欠管理が機能しない。

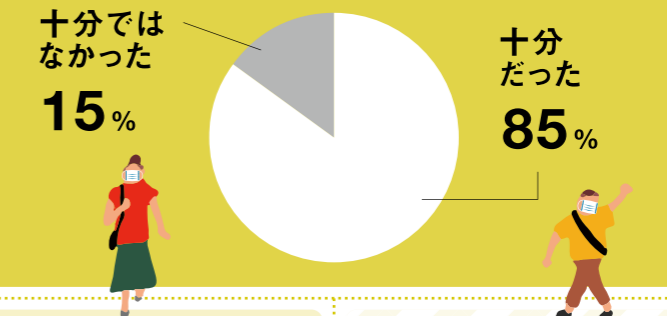
オンライン授業に対応できましたか。



オンライン授業になってよかったことは?

- 体調が悪くても欠席せずに授業が受けられる。
- 朝の時間にゆとりが持てる。
- 講義に集中しやすい。
- 通学距離が長い学生は時間と交通費を節約できる。
- 集団感染を避けられる。
- 自分のペースで好きな時間に学習ができる。
- 勉強に費やす時間が明らかに増えた。
- 重たい教科書を持ち歩かなくてよく、忘れ物もない。
- 何度も繰り返し復習できるので、取りこぼしが少ない。
- パワーポイントなどの資料が見やすくなった。

オンライン授業において大学のサポートは十分でしたか?



オンライン授業になってよくなかったことは?

- 課題が多くなる傾向にある。
- 対面ではないので理解に苦しむことが多い。
- Zoomで学生が音声のままにしていると雑音となって、授業に集中できなくなる。
- 先生のオンライン授業の対応力によって講義の質が変わってくる。

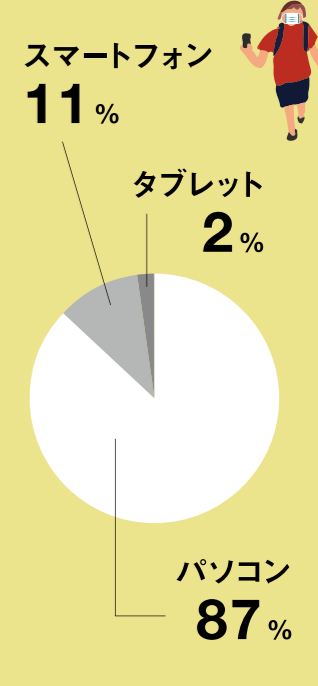
リアルタイム授業で困ったことは?

- WiFi環境が不安定なため、途中退出になってしまった。
- 先生の声が聞こえにくい。
- 講義資料を前日までに送っていない先生が多かった。
- オンライン授業の日と対面授業の日を分けてほしい。
- 授業時間をオーバーする先生がいた。

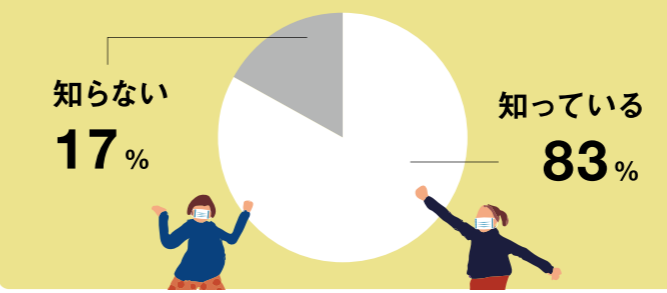
どんなサポートを求めますか?

- ZoomやMoodleなどの使い方を、もう少し時間をかけて丁寧に指導してほしい。
- WiFi環境がない学生へのサポート。
- オンラインでの手続きが可能なものを増やしてほしい。
- 資料等のコピー料金を補助してほしい。

どんなデバイスで受けていますか?



本学独自の学生への緊急支援制度*について知っていますか?



オンデマンド授業で困ったことは?

- 分からない点があった時、すぐに解決できない。
- 異なる講義形式や出欠確認方法を統一してほしい。
- ボリュームが多すぎて時間内に終わらない授業があった。
- 理解しづらく、単調に感じる。
- 画面を見続けることが辛い。
- 課題提出期限がわからない。

*本学は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により家計が急変した学生に対し、「家計急変学生緊急貸与奨学金(10万円貸与)」「学納金の延納」「家計急変学生特別奨学金(授業料減免)」の本学独自の緊急支援策を実施しています。

学生への あたたかな エール に感謝!!

別府市 学生エールプロジェクト

別府市では5月21日に、市内の大学に通う学生や別府市在住の学生を対象とした緊急支援策「学生エールプロジェクト」を打ち出しました。日頃から「学生は別府市の宝」と、学生の活動を応援していただいておりますが、今回も学生生活が困難になっているという声が上がると、いち早く学生支援に取り組んでくれました。別府大学では、6月3日、7月1日、8月5日の3回に渡り、お米とパスタの無料配布が行われ、事前に申請した学生たちが受けとることができ

ました。また、市民活動の環境整備などの活動に対する謝金が支払われる経済的支援も継続して行われています。「学生エールプロジェクト」は、心が折れかけた学生たちの励みとなっています。



配布もエールプロジェクトの一環として行われました

新型コロナウイルスの拡大により、アルバイト先の休業などで生活費の工面が困難になるなど、学生生活にも大きな影響が出ました。困っている学生を支援したいと、地域の方や大学ゆかりの方々からあたたかなエールが届きました。

市内飲食店 別大ランチ

本学では4月20日より、オンライン授業を実施していましたが、6月1日に一部の対面授業を再開しました。それに合わせ、学生食堂の混雑を避けるために、市内飲食店の協力を受け「別大ランチ」を学生ホールに開設しました。「アルバイトをしてくれたり、お店に来てくれたり日頃から別府大学の学生にはお世話に

なっている。こんな時だからこそ、おいしいお昼ご飯を食べしてほしい」と、学生価格のランチを提供してくれました。(ご協力店舗:なごみ、別府木村家パン、ぶたまんの店幸崎、087~OHANA~、焼肉かねだ、ホテルサンパリー、ヨリミチ、ヘイジョウエン、サニー敬称略)



ぶたまんの店幸崎



087~OHANA~



焼肉かねだ



ヨリミチ、ヘイジョウエン、サニー

河南大学 マスクの寄贈

本学と交流協定を結んでいる中国河南省の河南大学の国際交流室より、医療用マスク1,000枚をご寄贈いただきました。本学と河南大学は平成30年5月に協定を締結し、学術・人的交流を深めています。5月8日に本学に郵送でマスクが届き、「唐風和月 一衣帯水」とのメッセージが添えられていました。これは「中国と日本は海に隔てられているけれども、私たちの絆は固く結ばれています。

共に頑張りましょう」という意味で、本学への深い友好の想いを寄せてくれました。



寄贈いただいたマスクは学生に配布

別府法人会青年部 留学生への交流支援 (食糧品の寄贈)

別府法人会では、毎年、市内留学生の交流イベントを開催しています。今年は新型コロナウイルスの影響で実施できなくなったことから、留学生への交流支援ということで、留学生に食品を寄贈していただきました。6月25日に尾林大生会長ら法人会青年部のみなさんが来学し、留学生に果物

の缶詰、パスタ、小麦粉、レトルトカレーを一人ひとりに手渡しました。



留学生に食料の無料提供



梶原大治様



安藤博昭様



大分県日華親善協会様

そのほか、多数のご支援をいただきました。



サークル活動で コロナを明るく 乗り越えよう!

新型コロナウイルスの影響で、サークル活動が自粛となり、春の風物詩「サークル勧誘」も延期になっていました。

6月に対面授業が再開し、ついに「サークル紹介」が7月23日に開催されました。今回は文化部・運動部総勢27サークルが参加しました。アルコール消毒等、感染症防止対策を徹底し、3密を避けるため、34号館の教室を使用し、分散して行いました。30分の紹介時間の中、どのサークルも熱心に勧誘し、新入生からも「自分に合ったサークルが見つかった」「新しいことに挑戦してみたい」「掛け持ちでもやってみよう」と、意欲的な声が数多くありました!

今年はコロナの影響で、あまり大学に出て来られなくて友人ができるか不安だと思えます。サークル活動を通して経験できることは多いので、ストレス解消も兼ねてスポーツに挑戦してみませんか。新しい仲間と思い出に残る大学生活にしてください!

大学生活において友人は必要不可欠な存在だと思います。サークルに入ること、友人を得られるだけでなく、学校の仕組みや人間関係等を学ぶので、自分自身の成長や、コミュニティを広げるにはとてもいい場だと思います。文化会には各サークル間の交流も多いので、交友関係を広げるにはお勧めです。

文化会会長
(弥次喜多俱樂部所属)
国際経営学部 国際経営学科
4年 田中七海
(大分県立別府青山高校出身)



スポーツ振興会会長
(バスケットボール部所属)
文学部 史学文化財学科
3年 翁長尚希
(沖縄県立八重山高校出身)



手話
サークル
HELLO



器楽部



現代
視覚文化
研究会



吹奏
楽団



茶道部



箏曲
愛好会

05 たび研、地域住民と鬼のキャラクタータオル制作

国際経営
学科

—豊後高田市夷地区の活性化に向けて—

「旅と地域の研究会(たび研)」は、豊後高田市教育委員会および豊後高田市夷(えびす)地区の住民とともに鬼をキャラクター化したタオルを制作しました。タオルは地区内の豊仙寺に伝わる鬼面会をモチーフにしたもので、国際言語・文化学科4年伊藤涼子さんがデザインしました。

キャラクターには「えびすけ」という名前を付け、タオルは彼が地区内の国指定名勝「中山仙境」の無明橋から、この日巡った色々な場所を回想するというデザインになっています。制作にあたっては地区の皆さんと協議を重ねて構図

を練り、製造は愛媛県今治市の業者に依頼しました。

2020年2月15日、そのお披露目会が夷地区の夷谷温泉で行われ、地区の皆さんをはじめ大勢の方から称賛されました。なお、タオルは1枚500円で販売され製造した500枚はほぼ完売ということです。



地元ケーブルテレビ局から取材を受けました

04 公認心理師クラス、学外実習

04

人間関係
学科

クラス初めての学外実習!

文学部人間関係学科の公認心理師クラス、3年生21名の学外実習が始まりました。

公認心理師クラスは2018年度から新しくできたクラスで、今年度の3年生が1期生になります。

本学では、国家資格である公認心理師養成カリキュラムに沿って、医療、教育、福祉、司法犯罪、産業の5つの分野での実習を3年生から4年生にかけて80時間以上行います。

記念すべき最初の実習は別府市総合教育センターで行われました。新型コロナウイルス感染症予防対策を十分に行いながら、別府

市立少年自然の家「おじか」を利用し、不登校児童生徒のための体験活動プログラムを学生自身が体験し、プログラムの有効性や不登校児童生徒への心理的支援の在り方について学びました。

学生たちは、初の校外実習ということで、緊張しながらも一生懸命実習に取り組んでいました。



子ども達同士の関係づくりを促進する「イニシアティブゲーム」を体験しています

食物アレルギー対応メニューでおんせん県おおいたのOMOTENASHI

—産学官連携チームによるサポートブック完成!—

「アレルギーのある人もない人も美味しく料理を楽しみ、快適な旅を」をテーマに、大分県生活環境部食品・生活衛生課、大分県旅館組合連合会、大分大学、別府大学食物栄養科学部食物栄養学科が連携し、宿泊施設向けアレルギー対応メニューブック「Food Allergy サポートブック」が今年5月、完成しました。

3泊4日の連泊用メニューを開発、アレルギー症状発症時の緊急時対応、施設受け入れ体制例などが盛り込まれています。メニュー考案には、食物栄養学科科目「食物アレルギーの栄養指導」受講者53名が関わり、石川裕樹さん(当時4年生)

が卒業論文で総括を行いました。メニューは、宿泊事業者の方々との試食会や、食物アレルギーをもつご家族とのリスクコミュニケーションを経て選考されました。また、冊子は別府バスターミナルの協力で料理がブラッシュアップされ、写真家の菅直哉さんの撮影により立派な仕上げりとなっています。今後は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しながら、本冊子を利用した宿泊事業者向けの研修会開催やモデルツアーなどが企画されています。

石川さんは「みんなが考えたメニューが形になって嬉しかった。アレルギーがある人も旅行を楽しんでもらいたい」と話していました。



中央:石川裕樹さん(当時4年生)、右:大分県対策担当 喜田弥生さん、左:卒業論文担当 高松伸枝教授



メニュー考案に関わった食物栄養学科学生(当時3年生)

07 初等教育科児童学会「汐見稔幸講演会」開催

短期大学部
初等教育科

幼児教育のこれから—変化の時代に大切にしたいこと—

7月1日、初等教育科児童学会主催のもと、東京大学名誉教授、一般社団法人家族・保育デザイン研究所代表理事の汐見稔幸氏を講師にお迎えし、講演会「幼児教育のこれから—変化の時代に大切にしたいこと—」を開催しました。今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、東京会場と別府大学の3教室を繋ぐリモート講演にて児童学会会員約500名が参加しました。

AI時代で必要がなくなると言われる、身体や感性を十分に使うって生きること、人と豊かに関わり協力すること、考え工夫し協同



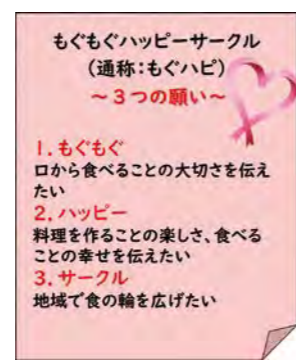
各会場同士を繋ぎ、リモートで講演を行いました

短大食物栄養科 研究会活動 新体制

からだところの栄養ラボ「もぐもぐハッピーサークル」の紹介

食物栄養科では、令和2年度より研究会活動を新たにスタートいたしました。研究会活動の名称を「もぐもぐハッピーサークル(通称:もぐハビ)」とし、「子どもの食と栄養研究会」「食事療法研究会」「調理・食品加工研究会」「食の科学研究会」の4つの部門に分けて、それぞれの研究会に所属する教員の指導の下、専門性を生かした活動を推進いたします。

子どもの食育だけでなく、若者世代、中高年、シニア世代、傷病者を対象とした食育活動を展開し、大分県の地産地消を大切に、これまでの食文化を伝承すると



研究会活動3つの願い

もに、新しい調理・加工食品の研究・開発を促進することを目標としています。このような活動を通して、食の専門家を目指す栄養士の卵として、相手の立場に立ち、相手を思いやる気持ちを大切に、して地域に貢献できる実行力のある栄養士を養成していきます。

03 検温、消毒、3密回避を徹底

史学・文化財
学科

令和2年度 第1回オープンキャンパス開催

コロナ禍の中で、別府大学も周囲との交流を自粛してきたなか、7月19日、今年初めての対面によるオープンキャンパス(県内高3生対象)を開催しました。アルコール消毒や換気等新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底し、午前午後の2部制で行いました。

挨拶や模擬授業を行う教員も、県内からの参加者の方々がマスク姿でいつものオープンキャンパスとは違う様子でしたが、西洋史の飯坂晃治准教授のクレオパトラの人物像についての講義や、文化財研究所職員による考古学の3D計測実演、アークイブセンターでの



石仏の3D計測データを紹介

針谷武志教授の近世地方文書の現物解説等、多様な形で催しを行うことができました。

例年通りの在学生と高校生との交流等はできませんでしたが、短い間でも、参加していた生徒や保護者の方々は熱心に聞き入っていました。

02 楽しくソーシャルディスタンスを!

02

国際言語・文化
学科

新型コロナウイルス感染防止啓発のポスターを制作



↑「ソーシャルディスタンス大事だね、と笑いあえるように、背景はポップで明るいイメージにデザインしました」(国際言語・文化学科2年 大前彩さん)

国際言語・文化学科芸術表現コース2年生の発展演習では、実践的なアートを目指して新型コロナウイルス対策をテーマにチラシを作成しました。その中から優れた作品を

実際に掲示板等に貼って、対策を呼びかけています。ぜひ新しい生活様式を楽しく身に付けていただけたらと思います。

海外へ飛び出し、世界を広げよう!!

海外留学制度

別府大学では2019年度から新しく留学制度がスタートしました。ただ英語を話せるようになるというだけではなく、これからの時代を柔軟に生き抜いていく国際性を身に付けてもらいたいと考えています。留学期間や渡航先を選ぶことができ、単位互換や授業料補助のサポートも充実しています。

※本年度は新型コロナウイルスの影響のため、一部中止するプログラムがあります。



ウィンチェスター大学
CEISコース
文学部 国際言語・文化学科
4年 福永 晃
(宮崎県立宮崎南高校出身)



ウィンチェスターは、歴史的な建造物が多く、自然も豊かで治安もよく、とても住みやすい街でした。CEISコースでは、日本の他大学から留学している学生と一緒に学ぶのですが、文法や発音を重視した授業でした。寮では外国人留学生との共同生活で、最初は習慣の違いに戸惑うことも多々ありましたが、多様性を受け入れられるようになりました！今回の留学で、たくさんの人と出会い、視野を広げることができました。これからも英語を使って、仕事や人生を楽しみたいです。

ウィンチェスター大学 留学体験談

ロンドンから2時間ほどの場所にあるイギリスの古都・ウィンチェスターの「ウィンチェスター大学」に留学した学生に体験談をお聞きました。



ウィンチェスター大学
IFPコース
文学部 国際言語・文化学科
4年 矢野 悠斗
(大分県立臼杵高校出身)

大学2年生の時に米国へ旅行したことがきっかけで、海外で英語の勉強をしたく留学を決めました。IFPコースは専門分野を英語で学び、多角的に英語を学習することができます。寮やサークルなどで友達ができ、会話が上達しました。新型コロナウイルスの影響により、本来であれば1年間留学のところ半年で帰国することになりましたが、オンラインで受講を続けることができたので、今年7月に無事プログラムを修了することができました。将来は英語の教員を目指しています。

海外でさまざまな経験をする楽しさを伝えたいですね。



お問合せ先
海外留学推進センター TEL0977-66-9639 (直通) 担当/嵯峨(留学生課)

みなさんの夢を叶えるお手伝いをします!

海外留学推進センター
事務長補佐 嵯峨 慶子

留学への夢をサポート

海外留学推進センター

海外留学推進センターでは、海外協定校等へ留学するプログラムの運営を行っています。説明会や事前オリエンテーションを開催して、単位互換や授業料・渡航費等支援などの留学情報を提供するほか、英語を話す機会として「English Cafe」も開催しています。留学に関することならなんでもお気軽にご相談ください。留学は、外国語を学ぶだけでなく、視野を広げ自分を成長させる貴重な経験ができます。ぜひ学生のうちに、留学に挑戦してください!

English Cafe

「英語を話す機会を学内中にあふれさせよう」「英語に対する恐怖感を減らそう」という目的で、昨年度からスタートした「別府大学 ENGLISH CAFE」。本学の学生なら誰でも参加できます。気楽に参加して、楽しく英語に触れてみませんか?開催日は、大学ウェブサイト、Moodleにて案内します。



※新型コロナウイルスの影響のためオンラインで実施予定です。

令和2年度 就活最前線

近年の就職活動は、売り手市場で学生有利とされてきましたが、新型コロナウイルスの影響で、一気に反転。大手就職サイト主催の「合同説明会」が中止になるなど、就職活動への影響が出てきています。今年の就職活動の現状と今後の対策について伺いました。

主体的に考えて、行動する力が求められています。

新型コロナウイルスの影響で、企業の合同説明会が中止となり、企業と学生が接点を持ちにくい状況が続いています。また採用の選考方法が対面からリモートに変わるなど、新しい採用様式への対応力が求められています。本学4年生の内定数は、昨年比で7割*と苦戦していますが、自粛の間も就職活動を続けていた学生が内定を掴んでいます。来年度以降は、景気の後退による

企業の採用意欲の後退とUターン学生の増加で就職戦線は厳しくなるものと思われます。企業は、主体的な動きができるポテンシャルの高い人材を求めています。3年生は、インターンシップを申込んだり、企業研究をしたり、早くからアクションを起こしていくことが大事です。キャリア支援センターを大いに活用して、希望の進路へと舵をとっていきましょう。

*2020年8月末現在

キャリア支援センター
マネージャー 山上 卓巳
マネージャー 高橋 良三



内定した先輩に聞いてみよう!

伝えたいことをしっかり叩き込んで面接に臨みました

フドーキン醤油株式会社 内定
国際経営学部 国際経営学科
4年 阿南 聡馬さん (東九州龍谷高校出身)



フドーキン醤油(株)は、大分県を代表する食品メーカーで、多くの人に愛され続ける商品を作っていることに魅力を感じました。新型コロナウイルスの影響で1次試験がなくなり、2次も最終面接のみとなりました。キャリア支援センターで面接指導を受け、参考書を読み込み、自分が伝えたいことをしっかり頭に叩き込みました。2次面接はリモートだったのですが、リモート面接では、自分の熱意が半減するのではないかと思います。伝えたいことを強調し、カメラから目を離さないことを意識しました。

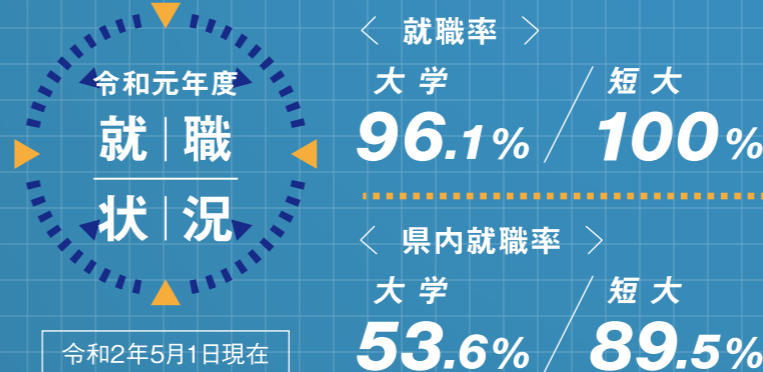
私は4年間大学の剣道部に所属し、厳しい練習を人一倍努力してきました。剣道を通して身につけた礼儀作法や努力することの大切さを仕事に生かしていきたいです。

3年のインターンシップから、この会社と決めて一直線

株式会社デンザイ東亜 内定
文学部 人間関係学科
4年 小野 奈那子さん (大分東明高校出身)



3年生の6月から就職活動を始めました。地元大分の企業で事務職を希望していたところ、キャリア支援センターから電気設備関連の総合卸売業である(株)デンザイ東亜を紹介してもらいました。私は左足に障がいがあり、働くことに不安があったのですが、見学に行った時、障がい者への理解がある会社だと感じ、ここに就職したいと強く思いました。それから、採用試験に向けて一直線。内定をもらった時は、家族も喜んでくれてうれしかったです。今、卒業論文で「車いす利用と障がい者雇用」をテーマに障がい者雇用の現状と課題を調査しています。卒業論文の成果と自分の社会人経験が、障がい者の方々の就労促進につながればと思っています。



※大学・短大・大学院の合計、一部既卒者を含む

生まれ育った大分で 大好きな子どもの成長を見守り 一緒に遊べる保育士になりたい!

持ち前の行動力とおおらかな笑顔で、周りを明るくする波多野歩美さん。憧れの保育士になるため、日々の授業や教育実習で熱心に学ぶだけでなく、将来を見据えた準備も欠かしません。フットサルサークルでは学年や学部の垣根を超え、学生同士の交流を楽しんでいます。

保育園の先生になりたいと思ったきっかけは?

高校生のとき、いとこが幼稚園の運動会でがんばる姿を観て「いつの間にか、こんなことができるようになっていく」と、目を見張る成長ぶりに驚きました。毎週のように遊んでいたのに、知らないことが多かったのです。そして「長いスパンで子どもの成長を見られる保育士になろう」と目標が定まりました。

印象に残っている授業や実習はありますか?

保育実習では、ひとりだけうまく周りに馴染めない子どもに声をかけたり、気持ちを考えたりして行動しました。その子が最後、少し打ち解けてくれたのが印象に残っています。自分が保育園児だったときの、担任の先生にお会いした時は驚きました。当時と変わらず元気に子どもたちと遊んでいて、久しぶりの再会を喜んでくれました。

在籍しているフットサルサークルについて教えてください

サークル紹介で楽しそうだなと思い、入部しました。練習は男女別ですが、合宿やごはんは一緒にワイワイして楽しい雰囲気です。技術面で難しいと感じることもありますが、女子は試合もなく、私を含めフットサル未経験の学生が多いので楽しめています。違う学部や学年の学生たちと交流できる、貴重な時間です。

将来はどんな保育士になりたいですか?

地元の大分市で保育士になりたいと思っています。私自身、0歳から6歳まで保育園にお世話になりました。いつもより早く親がお迎えに来ると「まだ帰りたくない、お迎え早いよ!」と怒るくらい、保育園が大好きでした。先生と親がすごく仲良かったこともよく覚えています。子どもが安心して楽しく遊べるだけでなく、保護者にとっても安心できる保育士になりたいです。

在学生に向けてメッセージをお願いします

ぜひサークルに入ってみてください。運動部の合宿は、大学生・短大生の合同で行われます。違う学部の学生と友達になれるし、普段は知り合わない先輩などと接する機会ができて、交友関係が一気に広がるのでおすすめです。あとは、ピアノが苦手なら早めに手を打った方がいいと思います。別府大学ではマンツーマンで指導してもらえますが、楽譜くらいは読めたほうがいいでしょう。ピアノに限らず、別大は先生と生徒の距離が近く、話をしやすい雰囲気です。実習先にもほとんど卒業生が働いていて、大分で、地元で就職を目指す人には有利だと思います。



短期大学部
初等教育科 2年

波多野 歩美

(大分県立雄城台高校出身)



波多野さんといとこ姉妹。とにかく可愛くて、毎週のように遊んでいるそう



フットサルサークルの仲間と。大学の体育館で練習しています

別府の温泉文化が 辿ってきた痕跡を 新しい視点でリロードする

佐賀県出身の円城寺健悠さんですが、別府の歴史を見つめていくうちにすっかりその虜となり、いまや別府の温泉文化を広める若き伝道師ともいえる存在に。自ら開催した写真展の会場で、別府への思いを聞きました。

史学・文化財学科の専攻ですが、歴史に興味があったのですか?

そうですね。小学3年の時に祖父の戦争体験の話聞いてから、歴史に興味を持つようになりました。僕の実家は佐賀市内なんですが、戦時中に祖父は長崎との県境に住んでいて、山の向こうに原爆のキノコ雲を見たそうです。被爆者が病院を求めて電車で佐賀までたどり着き、駅にあふれていたという話は衝撃的でした。高校に入って「アーカイブズ」という言葉を知り、祖父が「二度と悲惨な戦争を起こさないよう資料をちゃんと残しておくべきだ」と言っていたことを思い出して、日本史・アーカイブズコースがある別府大学への進学を決めました。

入学後、歴史に対する見方に変化はありましたか?

別府に住むようになって、単なる温泉観光地というだけでなく、温泉を軸にした古い建物や文化が残っており、それが生活の一部として根づいていることに驚きました。そこから「観光」という視点で歴史を考えるようになり、あちこち調べているうちに古い写真や絵葉書、資料を集めはじめるようになったのです。それらを見ながら、「ここに写っている人たちはどんな話をしているんだろう」「当時は何を考えていたのかな」といった具合に思いを巡らしていくと、すごく楽しいですね。

写真展『鉄輪の記憶』を開いたそうですね

鉄輪温泉にオープンしたチャレンジショップ『スクランブルベップ』で開催しました。湯治場として栄えていた頃からの鉄輪の移り変わりを写真と資料で紹介したもので、大きな反響を呼ぶことができました。開催にあたって、大学で学んだ知識もおおいに役立ったのですが、なによりも地元の人たちとの縁が広がったのは大きな収穫です。古くから湯治宿を営む方々、鉄輪で文化活動を行う『愛耐会』の会員、別府の歴史に詳しい郷土史研究家の皆さん、そして『スクランブルベップ』のメンバーなど、県外出身の僕のことを温かく迎え入れてくれ、たくさんのことを教わりました。

これからやってみたいことはありますか?

別府八湯それぞれをテーマにした展覧会を開催したいですね。次は北浜界隈の歴史を調べようとしているのですが、繁華街の様子や街並みの変化など、新しい発見があるといいですね。別府の歴史や文化は貴重なものばかり。僕たち世代がそれを見つめ直し、未来につないでいくことは意義があることだと思います。僕の取り組みが、その一翼になればうれしいですね。



キラリと輝く別大生を
紹介します。



文学部
史学・文化財学科 2年

円城寺 健悠

(佐賀県立小城高校出身)



写真展開催に至るまで数々のサポートしてくれた「スクランブルベップ」の皆さん



鉄輪を愛する人たちの協力を得て実現した写真展『鉄輪の記憶』

プロフィール

1974年生まれ、大阪府出身。精神保健福祉士、2015年京都大学大学院人間環境学専攻博士後期課程修了。博士(人間・環境学)。専門は精神保健福祉と精神分析。2005年から第8大学精神分析学部(精神分析学)の専攻主任。帰国後はNPO法人で働き、日本福祉大学福祉経営学部(通信課程)を経て、2019年より本学文学部に着任。



仕事のお供はRadio Tunes。集中するときはヒーリング、効率優先の時はアップテンポなど



文学部 人間関係学科 准教授
池田 真典
 Masanori Ikeda

精神保健福祉を通じて、地域、そして、世界と対話する

精神保健福祉士として

大学では精神保健福祉士の養成を担当しています。2008年から9年ほど兵庫県伊丹市で精神障害者の地域での生活を支える特定非営利活動法人(NPO法人)で働いてきました。主に障害がある人が働き、集う場を地域に創り出す仕事を担当していました。こうした経験をもとに、精神保健福祉の関連科目のほかに、地域福祉や障害者自立支援制度などの講義も担当しています。

実践と研究をつなぐ

福祉の世界はこの20年間に大きな変化を遂げ、現在でも大きな変化の中にあります。とくに、2025年には団塊の世代が後期高齢者になることもあり、人材やサービスの不足が予想されています。さらに、精神障害の分野に目を向けると、地域社会に受け皿がないため精神科の病院に長期入院を強いられる人が大勢います。これらの課題に対処するため、年齢や障害の有無に関わらず、自立した暮らしを地域で営むことができる仕組みづくりが模索されています。しかし、それは単に税金を投入し、

施設や人材の数を増やすだけでは解決しません。問題の本質は障害があったり、高齢であったり、病気がちの人などを排除しようとする社会にあるからです。この社会的排除という大きな問題に取り組んで、誰もが地域に居場所を見つけ、生きることができると期待できることが大切です。

日本とフランスを比較する

さらに視野を広げて、日仏の精神保健福祉の比較を行っています。フランスの精神保健福祉は地域医療型で、入院偏重型の日本は遅れていると言われます。しかし、問題はそれほど単純ではありません。一見して地域医療が進んでいるように見えるフランスにも根強い社会的排除があります。フランスでは公的な制度として地域医療が整えられています。しかし、現地に行くと調査してみると、予算の不足もあり、サービスを利用できない待機者が意外と多いことがわかってきました。

一方、日本に目を向けると、公的な障害福祉サービスがなかった時代に、精神障害者の家族、精神保健福祉の専門職、行政などが協力し合い、障害者が地域で働き、仲間と過ごせる多様な拠点が立ち上がってきました。

~ Other sides of Masanori Ikeda ~



1 コーヒーの自家焙煎ができます。伊丹の就労支援施設で働いていたときに、就労支援施設として喫茶店を立ち上げました。コーヒー専門店の指導のもと、利用者さんと一緒に自家焙煎を学びました。いまでも庭先でたまに生豆を自家焙煎しています。失敗もします。普段はインスタントコーヒーです。2 年に数回キャンプに出かけます。素人キャンパーですので、大したことはできませんが、見よう見まねでキャンプを楽しんでいます。お気に入りには雄大な阿蘇のキャンプ場です。キャンプに行くと、夏でも夜露の冷たさが身に沁みます。たいいてい風邪をひいて帰ってきます。3 大分は豊かで「うまし国」ですね。しかし、フランスは世界一の美食大国です。せつせと研究費を獲得し、あちらの病院や福祉施設の視察に行っています。が、食べ歩きが本当のモチベーションとの噂も...

自分らしい大学生活を送ろう

私たちがサポートします

学生支援プロジェクト・学生相談室

学生時代から「学生ファースト」でアットホームな大学だと思っていましたが、サポートをする側に立っても同じように感じています。みなさんの困りごとに対して、柔軟に対応したいと思っています。

年に一度アンケートに答えることで、自分の心の状態を知るきっかけになります。学生生活を肩に力を入れずに過ごせるよう、些細な不安や悩みをポロっと置いていける場所になればと思っています。

※「学生支援プロジェクト」は、文学部、国際経営学部、食物栄養科学部で実施。



学生時代は、学業や就職、友人や家族、恋人との関係、自分の性格など、さまざまな悩みを抱えやすいといわれています。そこで本学では2019年より「学生支援プロジェクト」を実施しています。

学生支援プロジェクトでは、「学生生活ストレス等に関するアンケート調査」を4月に実施し、みなさんの大学生活における困り事やストレスを把握し、必要と思われる方に心理的サポートを案内しています。アンケートの結果を受け、3名の相談員が、一人ひとりの困りごとに応じて、カウンセリングや学内外の関係各所との連携など多方面からサポートしています。

また、このアンケートに関わらず生活で悩んだり、友人との関係など、行き詰ったりした時は、一人で悩まず「学生相談室」に相談してください。専門のカウンセラーが、みなさんの悩みに耳を傾け、一緒になって最良の解決を目指します。

学生支援プロジェクト

相談員紹介

臨床経験を積んだ相談員がみなさんの学生生活の困りごとをサポートしています。別府大学院の修了生なので、別府大学の学生生活にも詳しいです。

公認心理師
 臨床心理士
榎原 有紀 さん



臨床心理士
三箭 元子 さん



コロナ禍の中、今まで抱えてきた不安や悩みが一気に噴出し、悩みを抱えている学生が増えています。大学生活が心地よく充実しているよう、その周りがある困り事を一緒に解決していきましょう。

公認心理師
 臨床心理士
小野 規子 さん



相談は学生サポートルーム(18号館3階)で行っています。

学生相談室

みなさんが大学生活の中で悩みや行き詰ることがあれば、「学生相談室」で話をしてみませんか? 前に進む一歩を一緒に考えていきましょう。

カウンセラー(公認心理師・臨床心理士)
高橋 陽子 さん

学生相談室(保健室)
 18号館1Fキャンパスショップ隣
TEL 0977-66-9678

- 相談は予約制です。予約は毎日受け付けていますので、まずは保健室(もしくは学生課窓口)にお気軽にお越しください。
- カウンセラーは月・火・金に保健室に來ています。



別府市認可保育園 聖人保育園
栄養士
緒方 温子さん

短期大学部 食物栄養科
平成29年3月卒業(大分県立別府青山高校出身)



給食は人生を左右する基礎 命をいただく大切さを 楽しく伝えたい

「短大時代、先生に調理の技を鍛えられたのが、
多角的に献立を考慮するようになったと言います。
就職当初は食べ合わせや彩りばかりに気を取られがちだったのが、今は
立を考慮するようになったと言います。
「短大時代、先生に調理の技を鍛えられたのが、
多角的に献立を考慮するようになったと言います。
就職当初は食べ合わせや彩りばかりに気を取られがちだったのが、今は
立を考慮するようになったと言います。」



保育園で提供する毎日のおやつもすべて手作り。子どもたちが喜ぶ顔を見るための工夫が凝らされています

0歳から6歳までの子どもたちが集う「聖人保育園」で、給食の献立を考え調理も担当する緒方温子さん。子どもたちからは「給食の先生」と呼ばれ親しまれています。
短大時代、6代目育ドル娘のリーダーとして精力的に活動しました。福岡の企業とお弁当作りでコラボしたり、全国各地の物産展で大分の県産品を販売したり、農林水産大臣賞を受賞しプレゼン大会に出場したり。得意のマイクパフォーマンスで大小様々なステージを湧かせた経験を持ちます。
別大の短大栄養科だったお兄さんから影響を受け、栄養士の道を歩み出した緒方さん。従来の子ども好きという性格に加えて、病院や施設よりもダイレクトな反応を見られる保育園に就職しました。
就職当初は食べ合わせや彩りばかりに気を取られがちだったのが、今は多角的に献立を考慮するようになったと言います。

「子どもたちの人生にも影響する、大切な基礎となるもの」だからこそ、食への興味を持ってもらうための工夫を日々散りばめているそうです。季節の食材を実際に見る・触る機会を作る、インパクトのあるデコレーションを施すなど、試行錯誤の毎日です。
「園児と大人の味覚は違うんですよ。だから意外なものがヒットするし、自信作なのに反応が良くないこともありますね。今後は魚を園児の前でさばいて、命をいただくということを伝えたり、おにぎりを自分で作って食べてもらったり、そんな体験の場を提供できたらいいと考えています」
子どもたちに楽しく美味しい給食を届け、食の大切さや知識も伝える緒方さん。未来を生きる子どもたちへの食育は、まだまだ続きます。



個性豊かなメンバーが揃った、6代目の育ドル娘。他の代よりも倍近い16人のメンバーをまとめました

大分県税事務所
課税第一課 事業税第二班 主事
白石 千恵さん

国際経営学部 国際経営学科
平成30年3月卒業(大分県立豊府高校出身)



県税事務所に配属され 皆さまからお預かりする お金の大切さを実感

「もともと化学や物理が好きで、理系の先生を目指していたこともありました」と話す白石千恵さん。いわゆる「リケジョ」理系女子」としての素養があったのでしょうか、大分県庁の職員として最初に配属されたのが県税事務所。数字が関係するという意味では、ある意味、その才能が活かされているのかもしれませんが。
「専攻は観光・地域経営コースを選択したのですが、簿記と出会ってからは、会計学にも興味を持ちました。きつちりした答えを見つけた時の喜びが、なんともいえません(笑)」
最初は「授業に出て来る専門用語がわかれば」といった程度で始めた簿記ですが、相性(?)のよさからか、すっかりハマってしまい、難関の日商簿記検定2級も3年生で取得しました。卒業後の進路を公務員に絞ったのも3年の時。公務員専門学校へも通い、その夢を叶えました。
「県税事務所では法人県民税の担当ですが、



夏休み中に開かれた集中講座にも参加し、合格を獲得した日商簿記2級。前列左から3番目が白石さんです

そんな白石さんに「次に配属を希望する部署は？」と尋ねたところ、「土木部です！」と意外な答え。道路や河川など社会基盤の整備・補修のほか、災害時には体力を使う部署ですが、実は白石さん、大学2年まではフットサルのサークルに所属。動き始めてからもジムに通ったりと、スポーツ好きの横顔もあるようです。
休日は友人とドライブに出かけ、陶芸や温泉を楽しむアクティブな日々をエンジョイする白石さん。大学時代の仲間たちと、キャンパスの思い出を語り合うのも楽しみだそうです。



別府大学で過ごした日々は貴重な思い出。研修旅行先でのお茶目な笑顔が、充実ぶりを表しています



絵本のスペシャリストになろう!



**認定絵本士講座
開設申請中**

短期大学部初等教育科では、令和3年度入学生から保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の免許資格に加え、「認定絵本士」の資格が取得できるようになります（大分県初）。「認定絵本士」とは、国立青少年教育振興機構が認定する、絵本や読書の養成を目的とした資格です。初等教育科では、教育・保育の基礎を学んだうえで、さらに絵本についての学びを深め、絵本を活用することを強みにして、保育者としての資質向上を目指します。講座は絵本に関する30のテーマを学ぶプログラムを実施し、九州各地の図書館関係者や絵本作家など多彩な講師陣による講義を予定しています。絵本のスペシャリストとして、子どもたちの心の豊かさを育みませんか。

手を取り合って。豪雨被害の日田市へ支援物資を!

別府大学吹奏楽団では、7月の豪雨により日田市出身の団員梶原美咲さん（初等教育科1年）の実家周辺地域が浸水被害に遭ったと知り、団員に衣類の提供を呼びかけました。団員は自宅で眠っている衣服を持ち寄り、マスクや日用品と一緒に日田市へ発送しました。梶原さんからは「団員みなさんの温かい気持ちに感謝の気持ちを感じていました。」

**田染荘の豊かさを伝える
トンボの写真展**

本学ギャラリーホールで、写真展「田染荘のトンボ」が開催されました。本学職員の佐藤さくらさんが、豊後高田市の田染荘に通い撮影した38種類のトンボとともに、田んぼで出会った生き物を紹介しています。美しい里山の豊かさを感ずることができた写真展となりました。（10月下旬から豊後高田市役所高田支局で巡回開催）

**別府市LINE公式アカウント開設しました
友だち追加してください!**

別府市ではLINE公式アカウントを開設しています。生活に役立つ情報や災害時の緊急情報を配信しています! 一人暮らし学生にはゴミの出し方なども調べることができるので便利です!! また新型コロナウイルスに関する情報もいち早く知ることができます。「いつもポケットに市役所を」みなさんお友達登録しませんか。

**「元氣モリモリ体操」で
自粛生活の運動不足を解消!**

本学食物栄養科学部食物栄養学部の吉村良孝教授は、自粛生活の運動不足やストレス解消に向けた「元氣モリモリ体操」を開発し、YouTubeで公開しました。細かい指導がなくても動画を観ながら、自宅で簡単に運動を続けることができます。学生や地域のみなさんの健康づくりに役立つよう、動画を活用し体操を推進していきます。

イラスト：白根ゆたんぼ
マスクを着用せずにキャンパスライフを過ごせる日が早く来ますように。

Be-NewsはHPでもご覧いただけます。

本学HPでは、下記ページにてBe-NewsのPDF版を公開しています。バックナンバーもご覧いただけます。
<https://www.beppu-u.ac.jp/general/pr/>

Be-Newsへのご意見ご要望がございましたら、下記までご連絡をお願いいたします。
別府大学・別府大学短期大学部 広報室
〒874-8501 大分県別府市北石垣82
TEL: 0977-66-6262
E-mail: koho@nm.beppu-u.ac.jp

本号では、コロナ禍の中、混乱しながらも奮闘する大学の様子を報告しました。学生も大変でした。その中で、新しい苦難を積極的に捉えようとする姿に希望を感じます。世界を覆うパンデミックとオンライン授業のような技術環境が、新しい時代を開くものであつてほしいと願っています(し)。

編集後記

地域連携



令和2年7月豪雨の被災地で別大生の力を発揮 災害復興支援ボランティア派遣



出発前に飯沼学長、仲嶺学長が学生らを激励



一輪車の操作も、発掘現場で使い慣れている考古学研究室のメンバーが頼りになります
九重町の宝泉寺温泉で浸水被害を受けた旅館では、力自慢の野球部、剣道部の学生が活躍
山間部では、一人暮らしのお年寄りの住宅にも被害が。泥を除去しました

2020年7月3日より、九州各地は豪雨による甚大な被害を受け、大分県でも多くの地域が被災しました。別府大学・別府大学短期大学部では、県内の被災地復興の一助を担うべく、7月14日より災害復興支援ボランティアの募集を開始し、7月16日に日田市、7月21日、29日には九重町へと、災害復興支援ボランティア(学生・職員)を派遣することができました。今回の募集に対して、学生84名、教職員20名、合計104名の登録をいただき、3回の派遣で延べ89名(学生69名、職員20名)の参加をいただきました。

派遣先では、浸水被害のあった旅館や住宅で、泥の除去や家財道具の運び出しなどを行いました。参加した学生は「想像以上に旅館の中に泥が流入しており、みんなで除去し、片付けが進んでよかったです」と語っていました。

新型コロナウイルス対策でボランティアが県内からの受け入れに限定される中、たくさんの学生がボランティアに登録してくれ、地元の大学として学生の力を発揮することができました。

被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

別府観光の父 油屋熊八に学び、 別府の未来を考える 別府“温泉”大学特別講座 「油屋熊八の世界から別府の未来を語る」



別府を愛する論客たちが1年5カ月振りに集結

油屋熊八に学びながら別府の未来を考えようと、本学客員教授で漫画家のクニシロウ氏、コメンテーターで漫画家のやくみつる氏、長野恭紘別府市長をゲストにお迎えし、トークイベント「油屋熊八の世界から別府の未来を語る」を開催しました。最初に、本学飯沼賢司学長が「熊八をめぐる文化人たち—観光と文化のあり方」と題して基調講演を行いました。続いてゲストの方々に登壇いただき、別府観光の父・油屋熊八の功績を振り返りながら、これからの別府をどう発信していくか語り合いました。やく氏は「熊八をゆるキャラならぬジモキャラとして全国に発信しては」と提案し、会場から大きな拍手が沸き上がりました。

2018年秋に企画されたものの台風で延期となっておりましたが、無事開催ができたのは、別府を愛する熊八翁の導きなのかもしれません。